

あたりまえってなんだろう

学 校 名：東大阪市立金岡中学校

指導時数：3時間

名 前：吉川 貴代美（家庭）

対象学年：中学2年生

実践教科：家庭科・社会・英語

対象人数：57人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

私が今回の教師海外研修に応募したきっかけは、2007年まで大阪府が全児童・生徒に配布していた人権教育教材「にんげん ～ひと・きぼう～」の中の『カンボジア旅日記』という教材との出会いであった。数年前、本校の生徒に平和について考える、世界で起きている事実を知らせる、著者である柴田知佐さんが中学生時代に体験したことが書かれた作品ということで使用した教材であった。「隣の公園（本校の横には広い公園がある）に地雷が埋まっているのと同じような環境の中で暮らしている子どもたちがいる」ということを知った子どもたちは、驚きを隠せなかった。

私が実際にカンボジアを訪れるまで知っていたことは、内戦、地雷…程度のものでしかなかった。現地を訪れて知った一番大きなことは、内戦などにより多くの命が奪われ、そのことがカンボジアの未来に大変な影響を及ぼしているという事実を様々な現場で感じたことである。さらに若い人々が占める人口が多く、彼らがカンボジアを担う存在であるからこそ学校教育が重要であること（あわせて、残念ながら学校教育にとっては物的・人的資源ともに厳しい環境であること）。アンコールワット遺跡のすばらしさを目の当たりにして、数日間で出会った皮を彫る若い少年や細かなカンボジア紬を織る人々の姿を思い浮かべた。カンボジアが素晴らしい技術を持つ国であることも知った。一方で支援のむずかしさについて、「（現地からすれば）必要な支援がされていない」という生の話を聞かせていただいたことも驚いたことの一つであった。（最近、東日本大震災の現地でもそのようなことが起きていると聞いた。）そんな様々な視点を持つことができ、さらに、そのカンボジアで多くの日本人が活躍しているということも子どもたちに伝えたいことであった。「自分が必要とされる人間でありたい」自尊感情の低い生徒たちにもそういう思いをもってほしいと思った。

2. カリキュラム

（1）実践の目的・背景

カンボジアも日本と同じアジアの国であり、主に子どもたちの身近な食にかかわるものの「違い」「似ている（同じ）」などに気付かせ、気候・風土の違いからそのようなことがあることを知らせる。

身近な生活の中から、今の日本と戦争が引き起こしているカンボジアの現状について考えさせる。

さらに、英語の教科書の中にある「Landmines and Aki Ra」という教材の学習で今回現地で収集してきた教材を活用してアキ・ラさんの生き方にふれさせたい。そこから、生徒自身ができることにつなげて考えていくことをめざしたい。



(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 チュムリアップ スオ！ ～カンボジアを知ろう～ ＊カンボジアに関する基礎知識を学ぶ。	●カンボジアの地理的概要 ●カンボジアの食文化と日本の食文化 米：インディカ米 砂糖：さとうやし 茶：ハス茶 ●家 日本と比較しながら、考える。	●世界地図 ●写真 ●さとう（さとうやし） ●ヤシの木から作られたすりばち ●インディカ米 ●ハス茶 ●レンコン ●教材プリント
2 時限目 カンボジアのコンビニをのぞいてみよう ＊日本とカンボジアのつながりについて学ぶ。	●コンビニのビデオを見せながら、気付いたことを交流する。 ●写真のスライドを見せながら説明する。 ・カンボジアと日本の人口ピラミッドの違いから読み取る。 ・日本とカンボジアとの関係も知らせる。	●ビデオ ●写真（パワーポイント） ●プリント ●地雷の模型
3 時限目 Landmines and Aki Ra ＊幼いころから学校に行けず、軍によって兵士にさせられたアキ・ラの生き方にふれ、自分ができることを考える。	●前時について知ったカンボジアでの戦争の歴史の中で、子ども兵士にさせられ、今は地雷除去を行っているアキ・ラについて知る。 ●このような事実を知った自分ができることを考える。	●ビデオ（アキ・ラの博物館で購入したもの） ●写真 ●プリント ●書籍「My Story」より抜粋

※この授業実践の前に平和学習として8月6日に各クラス担任が「カンボジア旅日記」（著者：柴田知佐）の学習を行っている。（東大阪市ではほとんどの小中学校で8月6日を平和登校日として設定して各学校で平和学習を実施している。本校では1・2年生が3年生からオキナワ修学旅行の報告会を実施し、その後平和について学ぶ機会を持っている。）

3. 授業の詳細

1 時限目：チュムリアップ スオ！～カンボジアを知ろう～

ねらい…カンボジアも日本と同じアジアの国であり、主に子どもたちの身近な食や住にかかわるものの「違い」「似ている（同じ）」などに気付かせ、気候・風土の違いからそのようなことがあることを知らせる。

◆内容◆

- 「ドラえもん」クメール版を使って
…カンボジアで親しまれていることやクメール語にふれるために使用
- カンボジアの位置を確認する。
- カンボジアの食文化と日本の食文化
- 家と仕事（産業）について理解させる。

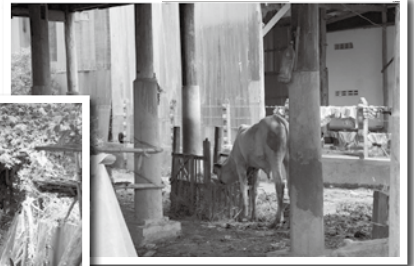


カンボジアの住居（上部）

👉 ココがポイント!

家が高床式であることなどは、すぐに出てきたが、その下で飼われている牛についてはなかなか出てこなかったがカンボジアの産業（生活）と結びついているということを伝えた。

家の下には 牛が…



生徒の感想

- ▶ カンボジアの米が長細いことを初めて知った。食べてみたいと思った。やしの砂糖はうまかった。
- ▶ カンボジアでは、ヤシの葉とかで家をつくったり、木で食器を作ったりしているのを聞いてすごいと思った。あと高床式の家があるのは社会で習って知ってたけど、その下に牛を飼っているとか知らなかった。

2 時限目：カンボジアのコンビニをのぞいてみよう

ねらい…カンボジアのコンビニを撮影した映像をみて、日本とのつながりや過去のできごとが今のカンボジア社会に及ぼしている影響に気付かせる。

◆内容◆

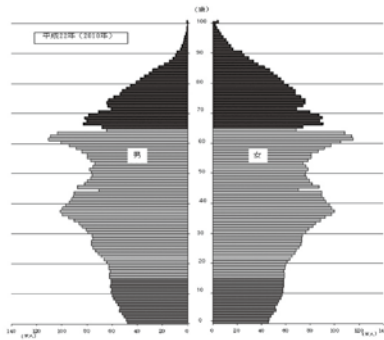
- カンボジアのコンビニを映した映像を見せ日本にかかわることや日本とちがう点を考えさせる。
- 日本製品が多く売られていることを知りカンボジアと日本のつながりがあることを知らせる。
- 日本のコンビニでは売られていない哺乳瓶、紙おむつなどがたくさん売られていることを知りなぜなのか、考えさせる。
- 2つの国の人口ピラミッドを比較しなぜそのような現状なのか考えさせ、戦争が現在のカンボジアに及ぼしている影響に気付かせる。



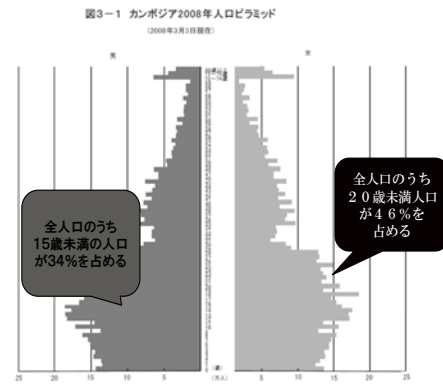
コンビニで売られている哺乳瓶

👉 ココがポイント!

- 約5分ほどの映像であるが、コンビニの様子を見せ子どもたちの自由な意見を出させる。
- その中で日本の製品が多く売られていることに気付き、親しみを感じさせる。
- パワーポイントを使用し、気付かせたい場面を見せ、考えさせる。



日本の人口ピラミッド



カンボジアの人口ピラミッド

生徒の
反応

ビデオを見ている時には、自分たちの身近にあるものを見つけると口々に発言する。「ＴＯ－ＦＵってあった」とか「コーラがあった」などなど野菜が売っていたことも意外だったようだがこちらが注目してほしい『哺乳瓶』には投げかけるまで気付かない。「なぜ？」・・・「いるから」「なぜ？」・・・「子どもが多いから」、そこで『人口ピラミッド』を配布すると日本とカンボジアの人口構成の違いには 少し何かがあるのかというところを感じていた。

生徒の
感想

- ▶ コンビニが日本のスーパーみたいな品ぞろえで広くてびっくりした。商品の字が漢字のやつとかもあって読めんのかなって思った。地雷が埋まっているかもしれないなんてこわいなって思った。
- ▶ 日本のコンビニとカンボジアのコンビニにいろいろな違いがあると分かった。昔カンボジアの人々が虐殺されていたのでかわいそうだった。
- ▶ 3人に1人が15才以下ときいてびっくりした。日本とは逆だった。
- ▶ 日本のコンビニとちがって品ぞろえがよかった。拷問はこわいと思った。地雷がまだ3/4残っているということにびっくりした。
- ▶ カンボジアは貧しい人がいっぱい物乞いもして生きていく人がいて生活が苦しいんだな、と思った。物乞いをする人に対してどうするのがいいのか、観光客がその人たちに簡単にあげたらあかんってわかった。むずかしいって今日の授業でおもった。

3 時限目：Landmines and Aki Ra

ねらい…幼いころから学校に行けず、軍によって兵士にさせられたアキ・ラの生き方にふれ、自分ができることを考える。

◆内容◆

- 英語の本文で学んだあと、深めるために「My Story」Aki Ra から抜粋してアキ・ラが生きてこられた足跡を年齢を追って調べてみる。
- ビデオ「地雷を掘る男」（アキ・ラの博物館で購入）を見せ、除去の様子やアキ・ラ地雷除去に対する思いを知る。
- アキ・ラの行動について感じたことを交流し、自分たちができることを考える。



「アキ・ラの博物館」にて購入してきた教材を活用して、生徒たちが理解しやすいように工夫する。特に 幼いころに戦争に翻弄され生きてこられたことを知らせ、さらに自分たちと同じ年頃で彼がおかれていた状況についても資料を活用し伝える。

◆所感◆

4 時間（事前の 1 時間）カンボジアに触れて事実を知らせ、考えさせるという授業をおこない、授業をする中で、伝えたいことを子どもたちに落とし込むことができた気がしたが感想を見ると、「かわいそう」という範囲で終わってしまっている。ただ事実を伝えるということから、日本とカンボジアのつながりや日本やカンボジアのこれからについて、自分とつなぐということができなかった。

4. 成果と課題

海外研修を終え、授業準備を行い、実際の授業を終えた今、もう少し深めて取り組むことが必要であったと思う。生徒たちは、「なんでそんなんするん」といいつつも、興味をもって取り組んでくれた生徒も多くいた。けれども、私が思っている以上に生徒たちの気付きが多く、その気付きからの学びを大切にするために丁寧に授業を組み立てていくことが必要であった。特に、「コンビニから…」の授業では生徒たちがしっかりと見てとろうという気持ちが伝わってきた。しかし、時間があまり取れないこともあり、生徒に伝えたいことが多岐にわたって自分の中に湧き出してきたため、簡単な言葉のやりとりで終わってしまった。今回立てた計画では深めることができなかったが、今後、生徒たちに「かわいそう」だけではないということを伝えたいと思っている。幸いにも本校には青年海外協力隊の経験がある教員もいる。そういう身近な方の経験を通して、子どもたちには他人事ではない問題としてとらえてほしいと思っている。そして、生徒自身が「自分が何か役に立てる存在」として生きていくきっかけになってほしいと願う。

おわりに

JICA 教師海外研修に参加させてもらったということで校内での授業以外に中学校区の小学校で授業をしたり、東大阪市人権教育研究会の平和環境専門部にて教職員向けの学習会をさせていただきました。以下に子どもたちの感想と研究会のニュース（通信）を載せておきます。この学習会を契機に研究会では 2 月には JICA 関西よりボランティア経験者の方を派遣いただいての学習会を予定しております。すこしでも JICA のことを広めるきっかけになったことをうれしく思います。

出前授業感想 東大阪市立長瀬北小学校 4 年生

- 最初にわたされた米でわたしは細長かったのがなにかんがって思っていました。次にわたされたのはさとうで、わたしは、肉だと思っていました。でも肉みたいなさとうは初めて見たのでさとうとは思いませんでした。ビデオを見たとき足がなくなった子を見たら少しこわかったです。それにばくはつしたところをみてすごいはくりよかったです。



- カンボジアは最初すごいいいくにやねんと思ったけど、地雷の話をしきとすごいひがいをうけているのがわかってすごいこわかった。そしてビデオをみて地雷をなぜ日本がつくったのかなと思った。ビデオを見てさいしょにあんなじらいをほかんしていたりあかいかんぱんをつけたところをはだしで子どもが遊んでいるから危ないと思った。

市人研 グッドニュース
2012 年度 No.14
東大阪市人権教育研究会事務局
発行

「平和・環境教育」専門部学習会 11月1日(木) 14:45～ 長瀬北小学校 31名参加

カンボジア旅日記 ～JICA海外教員研修で学んだこと～

今年8月にJICA海外教員研修でカンボジアに行かれた金岡中学校 吉川貴代美さんが、カンボジアで学んだこと、感じたことを長瀬北小学校4年生に伝える「出前授業」に参加させていただきました。



まず、カンボジアのお米や砂糖を見せたら、子どもたちは興味津々。それらを使ってカンボジアの自然や農業についてのお話がありました。その後、楽しんで学習していた子どもたちの表情が変わったのは「地雷」の模型が出されたとき。地雷が埋まっている土地で生活する人や遊んでいる子どもたちの写真、足を失った子どもの写真、埋まっている地雷が600万個あること、9分に1人が地雷の犠牲になっていること等は、子どもたちにとって衝撃だったようです。



地雷を作っている国の中に日本が入っていると知ったときは、「えっ」「あかん」と驚きや怒りやショックが感じられました。

第2部の講演会では、パワーポイントを使い、カンボジアの歴史や現地の様子をさらに詳しく教えていただきました。長引く戦争の影響で、30代以上の人口が少なく、字が読めるというだけで教師として働くという教師不足の実情があるということには驚かされました。そのなかで、現地の学校に勤務する日本人教師の「教育を変えていく必要性」についての話は興味深いものでありました。その後、出前授業を受けた子どもたちの感想を紹介していただき、子どもたちが本当に素直に吉川さんの話を受け止めている様子に、事実を知り、考えていくことの大切さや平和学習を自分の身近なこととしてつなげていくことの必要性を感じました。

<コミュニケーションカードより>

- ・授業の前半、子どもたちと同じ様にお米や建物に興味を持ち、私も一緒に授業に参加していました。後半に地雷の話になり、写真で学習する中で、息をのむ子ども、どよめきがおこることもありました。日本という国名が出てきたときの子どもたちの気持ちは想像に難くありません。もう少しいろいろ勉強してから、いつか行ってみたいと思います。
- ・子どもたちのおどろきをいかに次の取り組みにつなげていくかが楽しみです。担任の先生は「いのち」にからめてやっていきたいとおっしゃっていました。きっとすばらしい取り組みをされることだろうと思います。続きをぜひ知りたいなと思った研修となりました。
- ・今回の学習会に参加して、カンボジアの学校の現状や支援のあり方など想像もしていない事や内容だったので、おどろきばかりでした。ただ、支援するためのお金や学校を建てるだけでは自分たちの自己満足なのかと感じました。支援するためには、本当にその人たちがその国のためになることをよく考えてすることが一番大事なんだと改めて思いました。

全人教 岡山大会

日程 12月1日(土) 2日(日)
場所 岡山市、倉敷市、笠岡市、和気町 他
＜東大阪からの実践報告＞
第1分科会 人権確立をめざす教育内容の創造
「一番星の道-3年間のクラスづくりと道路-」
金岡中学校 新田明香さん
報告会場 山陽女子中学校・高等学校



東大阪から約40名が参加します。

☆今後の予定☆

12月 4日(火) 中人研 人権・部活動学習会
10日(月) 「人権・部活動学習会」専門部学習会
12月26日(水) 第4回年末塾
1月 9日(水) 冬の研究集会
1月12日(土) 第4回人権・部活動学習研究集会
(和歌大会)
2月 6日(水) 第35回なかがわ研
第5回年末塾

- 参考文献 ・人権教育読本 にんげん中学生 編集：にんげん編集委員会
・「ドラえもん」クメール語版
・「My Story」Aki Ra アキ・ラの博物館にて購入

資料①



生徒たちもよく知っているマンガがカンボジアでも売られているということとクメール語にも親しんでほしいと思い導入で使用

資料②

【チュムリアップ スト ①】

1. カンボジアの食生活

◆①主食は 日本と同じ()です。
日本 () 特徴



◆②砂糖は 日本で使われているさとうきびやてんさい以外に()からつくるものもあります。()は熱帯地方ではとても大切な樹木で、幹から()をつくりたり、葉で()を作ったりします。

◆③日本の緑茶や中国の烏龍茶、紅茶は「茶」という植物の葉っぱから作りますが、カンボジアやバトナムでは()という植物からつくってお茶が有名です。()の地下茎は わたしたちがよく食べる()です。

2. カンボジアの家 隠れているところはどんなふうになっているでしょう？

